

後援会だより

ごあいさつ

福島大学共生システム理工学類長 石原 正



日頃、後援会の皆様からは学生の諸活動に対して多大なご支援を頂き感謝申し上げます。

今回は、この場をお借りして、大学院修士課程への進学についてのお話をさせていただきます。

昨年度から、文部科学省は各国立大学法人に対して「ミッションの再定義」を求めており、福島大学でも文科省と大学関係者の協議を数回行い「工学系」としてのミッションを確定した所です。現在、文系のミッションを確定する作業が進んでおり、近々、福島大学としてのミッションが公表される予定です。

文部科学省との意見交換の際、文科省側から、「国立大学の工学系は学部学生の6割以上が大学院へ進学するものとしてミッションを考えてほしい」との発言がありました。

福島大学での共生システム理工学研究科博士前期課程(修士課程)の定員は60名と学類定員180名の3割程度に設定されているにもかかわらず、残念ながら定員充足が十分に達成されておりません。特に、昨年度の卒業生の進学者数は41名と大幅な定員割れとなりました。(大学院博士後期課程は定員6名ですが、現在の所、定員以上の入学者があります。)

国立大学法人の工学系大学院修士課程では、定員割れをきたしている所は極めて稀であり、旧帝大系では8割以上、地方国立大学の理工系でも6割以上が進学しております。修士課程の定員未充足は、理工学類・研究科の最重要課題と認識しております。

大学院修士課程の定員充足を達成するためには、先ず、後援会の皆様に上記の理工系における大学院教育の全国的状況をご理解頂く必要があると考えております。

私共の学類では、多くの学類生が公務員、教員を志

望しておりますが、例えば、理工系の国家公務員試験では修士課程修了が普通であり、教員免許でも、修士課程修了を必要とする専修免許の取得は採用上有利

なだけではなく、校長等の学校管理職となるための登用要件とされることが多いことをご認識頂きたいと思います。また、本研究科の修士課程修了生の有名技術系企業への就職は年々増えており、少なくとも技術系企業への就職では、修士課程修了者が学類卒業生より有利であると言えます。

大学院進学には経済的な問題も生じますが、日本学生支援機構による奨学金や民間の奨学基金を利用することで負担を軽減することは可能だと思います。(本年度は毎月12万円が支給される返還不要の民間財団の奨学金に2名の大学院生が採択されております。)

学類定員の180名全員を定員60名の修士課程に受け入れることはできませんが、80名程度であれば受け入れることは制度上可能です。理工学類・研究科としては、多くの学生が修士課程に進学し、その専門性を深め、社会で活躍することを期待しております。

後援会の皆様におかれましては、上述の理工系における大学院教育の現状と重要性をご理解頂き、ご子息、ご息女の本学大学院進学をご検討頂ければ幸いです。本年度の第1次募集は既に終了しておりますが、第2次募集は11月に実施予定です。

この件についてご意見・ご質問がございましたら、ご遠慮なく電話・メール等で、私までお問い合わせ下さい。

一年生紹介

Aグループ

グループアドバイザー
岡沼 信一

Aグループは、県内出身者が10名(内8名が自宅通学)、栃木県から5名、宮城県から3名、岩手県、青森県、新潟県からそれぞれ1名ずつの総勢21名のクラスです。明るく元気な学生が多く、初顔合わせ、壇上での自己紹介でも内容豊富でパフォーマンスありと、驚かされました。

「教養演習I」では、各種ガイダンスのほか、毎週4名ずつ研究室に招いて個人面談を行いました。この面談により、皆さんの生活環境、友人関係、サークル活動、アルバイト、そして将来の希望など、ライブキャンパスの学生情報では得られない、貴重な話を聞かせてもらいました。



Bグループ

グループアドバイザー
生田 博将

自然科学や技術分野では、英語で情報を収集し、また新たな情報を発信することが重要になってきています。

Bグループの教養演習Iでは、科学的なものの考え方の基本が身に付くよう英語論文の和訳を通じて、論文の構成や論理展開について学習を行いました。さらに、将来使用する可能性のある分析機器に興味をもってもらえるよう、予め測定原理を学習した上で、研究実験棟5階の機器分析装置の見学会を行いました。



Cグループ

グループアドバイザー
木村 勝彦

Cクラスは福島県出身が10名で、群馬と栃木が2名、青森、岩手、新潟、福岡、ベトナムが各1名です。全学的に県内出身者が増える傾向の中ではこのクラスの出身地は多様です。積極的な学生が多く、4月のガイダンスで自治会や大学祭の委員の選出を求められたときに次々と挙手があり、あっという間にメンバーが決まったのには驚きました。

前期は各自興味のある先生を選んでもらい、数名のグループで研究室訪問を行いました。後期は原発の原理や事故に関連したテーマをいくつか選んでグループで調べてもらうことにしました。これは、震災後に福大の理工に入学した学生にとっては、その知識が乏しいことがアンケートでわかったためです。



一年生紹介

Dグループ

グループアドバイザー
神長 裕明

Dグループは、福島県内と栃木等の近県を中心とした県外の出身者がほぼ半数ずつ、それに中国からの留学生1名の計21名のクラスです。女子は4名だけですがクラスのまとまりには欠かせない存在となっています。全体的におとなしい感じですが、食べたいものは?と聞くと即座に「肉!」と答える肉食系?の一面も持ち合わせています。

教養演習Iのクラス授業では、学びのナビを利用した大学生生活の動機付けや、後期の演習に向けてパワーポイントの活用の仕方の実習などを行い、皆まじめに取り組んでくれています。



Eグループ

グループアドバイザー
笠井 博則

Eクラスには男子学生16名、女子学生5名の計21名がいます。懇親のために4月にボウリング大会をし、7月にファンコインパーティーと称して会費500円/人で食べ物・飲み物を買ってきてする食事会をしました。学生内ではLINEを導入して学内の情報のやり取りを積極的にしているようです。

シャイであったり、先生のいうことを聞きたくない「いまどきの学生」もいますが、クラスのメンバーが有意義な大学生生活を送れるようクラスアドバイザーとして温かく見守っていきたいと思います。



Fグループ

グループアドバイザー
高安 徹

女性5名、男性16名の計21名の学生たちは、個性豊かな人たちが集まりました。委員の選出では希望者続出で、その積極性に大変驚かされた学生もいます。寄生虫大好きな学生も居れば、医療、福祉、コンピューター、…皆、様々な興味を持って入学してきたようで、この夢を忘れずに、これからの大学生活を満喫して欲しいです。大変なことも多いですが、充実した毎日を送れる様、サポートしていきたいと思います。



一年生紹介

Gグループ

グループアドバイザー
篠田 伸夫

Gグループは県内9名、青森1、秋田2、岩手1、新潟2、栃木3、茨城3名の計21名のクラスです。前期の教養演習では、各種ガイダンスをはさみながら、学内の情報環境の演習や、後期の教養演習で必要なプレゼンテーションの方法などを学びました。顔合わせのクラス会は南福島のお好み焼き店で和気あいあいと行いました。皆さんまじめで出席率もよく、後期も元気に学んで行けそうです。



Hグループ

グループアドバイザー
佐藤 理夫

Hグループは、福島県勢7名と、青森・岩手・宮城・新潟・茨城・栃木・埼玉・山梨と東日本各地から集まった学生からなる、個性豊かな集団です。アドバイザーは「子供は放し飼い」がポリシーの2児の父。「自由にやれ!」と言いながら、エサは遠くに投げて足腰を鍛えるようにしています。前期は研究室訪問記の作成で、理工学類を知るとともに自主的なチーム作業を経験しました。後期は、自らが自由に選んだテーマについて調査し、考察を加え、判りやすく伝えるための配布資料とプレゼンファイルの作成を行います。「英文要旨も書こうね!」と、さらに遠くにエサを投げました。



Iグループ

グループアドバイザー
高貝 慶隆

Iクラスでは男性16名、女性5名の合計21名で、福島、栃木、茨城、新潟、宮城、岩手、山形、青森、ベトナムと出身地域でみるとバラエティーに富んだと構成になっています。明るい学生ばかりで、人見知りすることなく入学時から臆することなく活動して頂き、アドバイザーとしては大変安堵しております。教養演習Iでは色々な研究室を見学して、活発な活動を垣間見て自分の将来像が少しは見えてきたのではないかと思います。今後の成長に期待していただきたいと思います。



「保護者のための就職セミナー」の開催について

(主催) 福島大学就職支援委員会

(後援) 福島大学人間発達文化学類後援会、福島大学行政政策学類後援会
福島大学経済経営学類後援会、福島大学共生システム理工学類後援会

テーマ:「大学生の就職事情と就活における親の役割」

どのような就職状況であろうが、非常に早い時期に希望の会社の内定を取る学生もいれば、就活に苦戦をし、就活が長期化する学生もいます。その違いはどこにあるのでしょうか。大学のキャリア教育や就職支援の取り組みとともに、このことについてお話ししたいと思います。また、就活時における親の心構えについてもお話しします。

参加を希望される方は、参加申込書にご記入の上、FAX・郵送・メール等で、10月18日(金)まで就職支援室あてお送りくださいますようお願いいたします。お送り頂いた参加申込書により、そのままセミナーにご参加いただけます。そのため、こちらからはお申込みの結果についてご連絡はいたしませんので悪しからずご了承ください。

なお、当日は金谷川のキャンパスで「大学祭」も実施されております。併せて是非ご覧いただけますようご案内いたします。

記

1. 開催日時 平成25年11月2日(土) 13時~14時30分 [参加無料]
2. 開催場所 福島大学共通講義棟 L-4教室 (福島市金谷川1番地)
3. 参加対象 福島大学の在学生の保護者の皆様
4. 開催内容 ①挨拶 工藤 孝幾 副学長
②講演 伊藤 宏 就職支援委員会委員長(経済経営学類教授)
③質疑応答

[参考]

≪伊藤宏氏のプロフィール≫

昭和31年 名古屋市生まれ

平成22年度から福島大学就職支援委員会委員長、CDA(キャリアテベロップメントアドバイザー)、福島県労働委員会会長代理

担当科目: キャリア形成論・原価計算・管理会計

【申込先】福島大学学生課就職支援室長 齋藤 正廣
〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地
TEL 024-548-8108 FAX 024-548-8355
E-MAIL: shushoku@adb.fukushima-u.ac.jp

平成24年度

卒業生・修了生の進路状況と今年度の就職活動状況

共生システム理工学類就職支援委員会・委員長



1.平成24年度の共生システム理工学類卒業生の概況

表1に共生システム理工学類の卒業生の進学、就職の状況を示します。

表1 卒業生の概況 (単位:人)

項目		H22年度	H23年度	H24年度
卒業生		199	191	187
就職者(a)		119	123	106
就職者内訳	農・漁・鉱業			
	建設業		6	4
	製造業	12	21	19
	電気・ガス・水道業	1		
	情報通信業	22	12	14
	運輸業、郵便業	6	3	5
	卸・小売業	8	10	10
	金融業	7	7	6
	保険業	1	1	1
	不動産業、物品賃貸業			
	宿泊業、飲食サービス業	1	2	1
	教育・学習支援業		1	4
	医療、福祉	4	2	4
	複合サービス業	4	2	1
	サービス業	14	11	4
	国家公務員	5	4	2
地方公務員	23	31	21	
教員	8	7	8	
自営業・その他	3	3	2	
進学者等		41	45	55
その他		39	23	26
その他内訳	未定(b)	18	8	9
	公務員等希望者	19	10	12
	その他	2	5	5
就職率		86.9%	93.9%	92.2%

*就職率=就職者÷就職希望者【就職者(a)+未定者(b)】

平成22年度は東日本大震災の影響で卒業生全員の就職状況の確認が徹底できず、未確認の卒業生は就職未

定者としてカウントしたため、就職率については実態を表した数値であるか疑問の余地が残ります。東日本大震災の影響を大きく受けた平成23年度の就職率は93.9パーセントでした。昨年度の平成24年度は92.2パーセントです。平成23年度と24年度では、卒業生、就職者の数にも差異があるものの、未定者で1名の違いです。平成24年度で言えば9名である就職未定者へのさらなる細やかな対応が、未定者へのケア、就業を実現し、就職率の向上、本学類の評価の向上、次年度の就職活動への良好な影響へつなげるものと期待できます。未定者のまま卒業せざるをえなかった方にも、卒業後も継続して就職支援を行っております。

また、大学院への進学者が増加傾向にあり、学類の授業や研究から、さらに発展した領域へ踏み出す学生が増えています。

2.平成24年度の博士前期課程修了生の概況

大学院(博士前期課程)共生システム理工学研究科の修了生の進学、就職の状況を示します。平成24年度は公務員として就業する修了生が増えています。

表2 大学院修了生の概況 (単位:人)

項目		H22年度	H23年度	H24年度
卒業生		57	49	45
就職者(a)		35	30	31
就職者内訳	民間企業等	32	24	24
	国家・地方公務員	1	1	4
	教員	2	2	2
	自営業等	0	3	1
進学者等		9	4	4
その他		13	15	10
その他内訳	未定(b)	7	11	5
	公務員等希望者	0	1	0
	有職者	5	0	1
	その他	1	3	4
就職率		83%	73%	86%

*就職率=就職者÷就職希望者【就職者(a)+未定者(b)】

3.平成25年度の就職活動状況

福島大学の共生システム理工学類から今年度こそ採用をしたいと申し出ている企業も数多くありますが、就職希望者の希望と一致せず、本学類生の会社訪問すら実現できず落胆している企業もある状況が続いています。また、災害復興に伴う地方公務員の採用枠が、従来、若干名程度であったものが、かなり大きくなり、福島県職員などへの採用試験に臨んでいる学生も例年より多いようです。日本経済には明るい兆しも出ていますが、現在まで就職内定を得た学生数は、例年よりも良好と言える状況には至っていません。

福島大学では、次のような就職支援も実施しており、就職希望者におおいに活用していただきたいものです。

- 就職活動にかかわる交通費の支援
- 合同企業説明会の開催
- 学外企業説明会へのバス送迎、企業訪問バスツアー
- インターネットも活用した求人情報、就職活動支援情報の提供
- キャリア相談員による就職・進路個別相談

特に、キャリア相談員による就職・進路個別相談はたいへんに好評で予約も多く、毎年拡充しております。また、本学がインターネット経由で発信する情報は、学外の就職情報サイトと併用していただきたいものです。福島大学生にフォーカスした情報が多く掲載されています。また、後援会のみならず本学に在籍していない方でも、福島大学のホームページにある「就職の広場」を通して、就職支援の一部をご覧ください。

福島大学の共生システム理工学類から今年度こそ採用をしたいと申し出ている企業も数多くあります。一方で、残念なことに就職未定者も例年おられます。このような学生の就職活動と企業の採用活動の差異について、双方に説明し理解を求める努力を就職支援委員会では行っています。年度の後半になっても就職先が未定の方がおられましたら、大学の就職支援室、あるいは、学類の就職支援委員会へ、今までよりもさらに踏み込んだ問い合わせ、希望を伝えていただければと思います。

私たちの進路

福島大学大学院 人間-機械システム分野

2011年3月修了

研究科前期課程を修了し、就職して3年目になります。

職場では現在、生産技術の仕事をしています。簡単にいうと、製品を作るための機械を作っています。いかに簡単に早く製品を作るかを考えた設計をしています。研究科では制御を研究していたおかげで、制御を考慮した機械の設計を考えることができます。

1年から4年までの学類生の間は、知識を得ることで精いっぱいでした。大学院すなわち研究科に入ってから、その知識を使って、自ら研究の筋道をたて、計画的に実験をしたり自分で調べたりすることが大切でした。学類では知識の横幅を広げ、大学院では専門を作るイメージを持っていました。

大学で勉強してきた専門と少し違う分野に就職しましたが、研究活動を通して学んだ論理的思考や段取りを組むなどの問題解決能力は、時間とコストとの勝負である仕事でとても役立っています。

福島大学大学院 産業システム分野

2012年3月卒業

私は現在大学院に進学し、研究室独自のレアアース回収技術の高効率化と、その理論解明について研究しています。学類時代から大学院に興味がありましたが、自身の卒業研究をしていくうちに研究の面白さを体感しつつ、我々の技術を確立することで省資源社会に貢献が期待できることに対する使命感を持ったため、大学院進学を決意しました。進学した後、論文等を調査しつつ研究を進めていくうちに、レアアースの性質のみならず、他の分離技術や分離理論の応用、微粒子の性状等の幅広い科学的視点と、コストやスケールアップなどの実用に向けた経済的視点など、様々な視点で物事をとらえるセンスが身についてきたと感じています。

最近では学会発表をする機会があり、忙しさで慌しくも充実した日々を送っています。まだまだ経験不足ですが、今以上に努力し日々精進していきたいと思えます。



学生生活支援便り

共生システム理工学類 学生生活委員会

【学類学生の動向について】

学生と教員が集い、互いの交流を深めることを目的とした、「学生交流会」という催しが5月22日(水)午後、大学会館2階大集会室で開催されました。この学生交流会は、理工学類の学生自治会の諸君が中心となって企画してくれたもので、片手に寿司やサンドイッチ、もう片手に飲み物という立食形式のスタイルで、友人同士、先輩後輩、あるいは学生と教員が、大学生生活、学業と卒業研究、将来の夢などについて大いに語り合い、有意義な時間を過ごすとともに、ゲームやクイズなど種々のレクリエーション・イベントな

紙面を拝借いたしまして、後援会の皆さまに理工学類の学生の動向、学生生活上の注意などをお知らせしております。

どの企画も大いに楽しみました。

また、交流会では、昨年度の学業成績優秀者の表彰式が行われました。これは、1年間の取得単位数を考慮して、GPAと呼ばれる成績評価数値の上位約15名に対して、学類長が学業成績優秀者として表彰し、賞状と図書カードを贈呈するもので、当日は2年次生から4年次生の代表者が壇上にて学類長より表彰されました。交流会や学生表彰には、後援会からの多大なるご支援を頂いております。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。



5月22日 学生交流会



5月22日 学生交流会

教員、大学への相談

学生生活の中で学生諸君は、進学、就職、授業やアルバイト、人間関係など、さまざまな問題に直面するものです。さらに、震災や原発問題も学生たちの生活や心に影響を与えているだろうと思います。友人たちで悩みを打ち明けあい、相談して解決していくこともとても重要なことですが、もし本当に困ったことがあったならば、教員にも一言、相談してください。グループアドバイザーや指導教員がもっとも身近な教員です。遠慮することはありません。教員も、学生諸君が相談に来てくれることを待っています。

それから、学生生活に関わるさまざまな問題や心配事は、学生課が窓口となって、相談を受け付けていま

す。授業料免除や奨学金の問題、その他生活に関する相談など、困ったこと、各種トラブルが生じたときには是非ご相談ください。

対人関係やメンタルの問題については、学生相談室に専門のスタッフが常駐しています。相談者のプライバシーは必ず守られますので、問題が悪化する前に、早めに対処することが望ましいです。ご家族の皆さまとの連携もたいへん重要なポイントですので、ご心配な場合はお気軽にご相談ください。

連絡先 学生課 TEL024-548-7681
学生相談室 TEL024-548-5156

平成24年度成績優秀者表彰

1年

柳沼 貴寛
高橋 香澄
山野 一騎
ダムクワンマン
関根 康平
大島 涼
加藤 光
宗像 愛
阿部 良祐
照沼 大誠
新山 昌悟
大久保浩幸
高木 勇人
菊地 彩
中川 太一
高橋 巧磨
ロウシホウ

2年

成田 裕幸
青野 真依
阿部 周平
八木沼寛子
渡邊 健作
宮崎 美妃
渡邊 愛
今野 浩道
佐藤ひかる
大島 雅史
鹿野 雄大
井上 浩太
市川 璃美
曲竹 和也
高橋 力也
梶 いぶき
伊澤まどか

3年

野田真優子
神野 成美
吉家 芳明
オウイホウ
藤澤 昭仁
和知 眞子
加藤 哲也
畠山早也夏
中山 大輔
木目澤友梨恵
芳賀健大朗
関本 慶太
大竹 茜
佐藤 直樹
小平 史圭

4年

鳥居 洋介
吉成 正顕
赤城 優香
酒井 貴紘
峯田 真吾
赤沼 勇人
星 貴文
本柳 健
佐藤由佳莉
杉山 拓也
佐藤 拓磨
筋内 愛咲
龍崎 尚真
村上 真哉
春山 直人
田中 幸宏
奥山 杏子

Congratulations!



5月22日 成績優秀者表彰



表彰を待つ皆さん



8月3日 サイエンス屋台村



8月4日 オープンキャンパス

平成24年度
共生システム理工学類後援会
会計決算報告

科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰越金	6,464,949	6,464,949	0	学生活動助成(36万円×6年)、福利厚生費(18万円×6年)、通信費(3万4千円×6年)等を含む
会費	3,600,000	3,345,000	△ 255,000	入学者169(編入学生を含む)
雑収入	0	95,539	95,539	利息 前年返還費立替分
収入合計	10,064,949	9,905,488	△ 159,461	

科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
事務局運営費	5,000	0	△ 5,000	資料印刷費等
役員会費	130,000	120,089	△ 9,911	理事会会場費、交通費、資料費
人件費	600,000	600,000	0	事務職員給与
事務費	45,000	67,706	22,706	通信費、消耗品費、事務局備品等
小計	780,000	787,795	7,795	
事業費	700,000	600,595	△ 99,405	学生の課外活動支援費、表彰制度
就職指導対策費	100,000	10,901	△ 89,099	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
後援会報費	300,000	271,420	△ 28,580	会報年2回発行 印刷費・発送費
福利厚生費	720,000	393,000	△ 327,000	アドバイザーグループ助成 研究室配属学生補助：1,000*180*4
学類運営助成費	200,000	84,421	△ 115,579	理工学系学部長会費他学類の対外交渉・応接に要する経費
教育研究助成費	800,000	576,021	△ 223,979	実地指導・実習指導助成、資格試験受験助成：3,000*100、学会参加費、研究交流会費、海外演習助成：30万
小計	2,820,000	1,936,358	△ 883,642	
予備費	0	67,835	67,835	学籍異動に伴う会費返還費
支出合計	3,600,000	2,791,988	△ 808,012	

収入合計－支出合計＝ 7,113,500 円は平成25年度へ繰越

平成25年度
共生システム理工学類後援会
会計予算

科目	本年度予算額	H24年度予算額	比較増減額	備考
繰越金	7,113,500	6,464,949	648,551	
会費	3,600,000	3,600,000	0	5,000*180名*4学年
雑収入	0	0	0	預金利息等
収入合計	10,713,500	10,064,949	648,551	

科目	本年度予算額	H24年度予算額	比較増減額	備考
事務局運営費	5,000	5,000	0	資料印刷費等
役員会費	130,000	130,000	0	理事会会場費、交通費、資料費
人件費	600,000	600,000	0	事務職員給与
事務費	45,000	45,000	0	通信費、消耗品費、事務局備品等
小計	780,000	780,000	0	
事業費	600,000	700,000	△ 100,000	学生の課外活動支援費、表彰制度：5,000円*45人
就職指導対策費	300,000	100,000	200,000	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
後援会報費	300,000	300,000	0	会報年2回発行 発送費を含む
福利厚生費	720,000	720,000	0	教養演習グループ・研究室配属学生助成：1,000円*180名*4学年
学類運営助成費	200,000	200,000	0	学類の対外交渉・応接に要する経費
教育研究助成費	700,000	800,000	△ 100,000	実地指導・実習指導助成、資格試験受験助成：3,000円*150人、学会参加費、研究交流会費、海外演習助成
小計	2,820,000	2,820,000	0	
支出合計	3,600,000	3,600,000	0	
予備費(繰越金)	7,113,500			学籍異動にともなう会費返還費 学生活動助成：36万円* (1年+2年+3年) 福利厚生費(18万円*6年) 通信費(3万4千円*6年)
合計	10,713,500			

平成25年度 福島大学共生システム理工学類 後援会役員

会長 押切竜一郎 / 副会長 神野 幹彦 / 副会長 高橋 清典 / 監査 小泉 昌子
 理事 加藤 孝裕 / 理事 阪本 松男 / 理事 野田 博正 / 理事 計良 浩
 理事 丹野 茂生 / 理事 根本 博幸

福大祭へ
お越しく下さい!

第49回 福大祭 本祭 (一般公開)

●場所：福島大学 ●日時：平成25年11月2日(土)～3日(日)

ステージ発表・模擬店・子ども向け企画・学外展示・お笑いステージなどを企画しています。

ご意見・ご要望は下記 共生システム理工学類後援会 まで

事務局 〒960-1296 福島市金谷川1 福島大学理工学群共生システム理工学類内 TEL&FAX 024-548-8176

学類のHPで様々な教育・研究活動をご覧ください。 <http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/>